

# 子育てママに優しいイクルマ、 誰にとっても優しいイクルマ 新型N-BOX登場!



ホンダ「N」シリーズの第1弾として2011年にデビューしたホンダN-BOX。日本の家族がどんなクルマを望んでいるかを徹底的に追求し、年を経てもその魅力は失われず多くの人に愛されてきた。今回登場した2代目N-BOXもそのコンセプトを踏襲する一方で、エンジンやプラットフォームを刷新するなど思い切ったチャレンジにより一段と進化。大幅な軽量化、室内空間の拡大や助手席スーパースライドシートの採用、トップレベルの先進安全性能、高い質感の実現、動力性能と燃費の向上と、あらゆる面で先代モデルを上回るN-BOXへ生まれ変わった。日本の家族を幸せにしてくれる軽自動車として、期待を裏切らない仕上がりで登場した新型N-BOXの魅力は尽きない。

**使いかた自由自在、  
助手席スーパースライドシート**



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
芝大門センタービル3階  
電話 東京 (03)5777-2351 代表

# ホンダ 新型 N-BOX 特集号

**ホンダセンシングを  
全タイプ標準装備**



純正アクセサリー

個性的なスタイルや洗練されたインテリアを、一段と引き立てる純正アクセサリーも豊富に用意されている。インテリアをよりモダンに仕立てる北欧スタイルコレクション、クルマ全体をスポーティに仕上げるファンレーシースタイル、N-BOXカスタムの個性をより際立たせるクールプレミアムスタイルなどをセットアイテムとして提案。また、両手に荷物を抱えた状態でも、足の動きでスライドドアを開けられるハンズフリースライドドアや、乗り降りが楽になる電動オートサイドステップなど機能部品も充実している。カーナビゲーションは予算などに応じて、豊富なラインアップのなかからチョイスできる。



純正アクセサリー装着イメージ  
ファンレーシースタイル(右)とクールプレミアムスタイル



ホンダ N-BOX 主要諸元表

燃料消費率は定められた試験条件での値です。使用環境や運転方法に応じて燃料消費率は異なります。詳しくはお近くのホンダカーズまでお問い合わせください。



## ゆとりの広さ便利さも備えたパッケージ



### 助手席スーパースライドシートで新たなカーライフを提案

座面が広く使えるベンチシート仕様に加え、助手席の前後スライド量が570mmのスーパースライドシート仕様も設定。このロングスライドの効果は大きく、リアドアから運転席へのスマートなアクセス、後席チャイルドシートに座った子供のケア、広い床面を生かした靴の履き替えなど利便性は高い。どの席からでも軽い力で操作できるので、車内での動きの自由度は大幅にアップ。雨の日なども重宝する機構だ。また、後席は左右独立で190mmのスライドが可能ならうえに、座面のチップアップ機能を活用し背の高い荷物も積み込める。シートバックをたためばフラットな荷室空間が得られ、アレンジメントは多彩。1台で何役もこなすボテンシャルを秘めている。



### パワートレインと燃費性能

新開発の自然吸気エンジンは、ホンダが誇るVTEC（可変バルブタイミング・リフト機構）を軽自動車で初めて採用。低速域から高速域まで幅広いトルクバンドを持ち、燃費を抑えながらもパワフルな走りを実現している。また、ターボエンジンには軽自動車初の電動ウェイストゲートを採用し、過給圧を最適にコントロールすることでレスポンスと低燃費を両立。ともにホンダらしい気持ちのいい走りと環境性能を両立したパワーユニットに仕上げられている。組み合わされるCVTには新たに2系統吐出オイルポンプシステムを採用し、効率を高めることで省燃費に貢献。どんな条件下でも爽快な走りを楽しむことができる。



### 先進の安全性能



ぶつからないための衝突軽減ブレーキをはじめ、10の先進安全機能を持つHonda SENSING（ホンダセンシング）を全グレードに標準装備。車線からはみ出さないための路外逸脱抑制機能や、前方および後方への誤発進抑制機能などに加え、適切な車間を保って走り続けることができるアダプティブ・クルーズ・コントロール、ヘッドランプ上下光を自動で切り替えるオートハイビームなど総合的な安全性能が確保されている。さらに衝突した場合でも衝撃吸収性能の高いボディがキャビンを守り、軽自動車では初採用の内圧保持タイプi-SRSエアバッグが乗員を守ってくれる。新型は歩行者保護性能も向上し、まさに全方向の安全性能が確保されている。

新プラットフォームの採用により室内の広さだけでなく、使い勝手のよさも一段と向上した新型N-BOX。エンジンルームのコンパクト化などにより、前席と後席の間隔は25mm広くなり、大人4人がくつろげる十分なスペースを確保。荷室も床面の長さが25mm延長され、開口部高さを75mmも低くしたことで荷物の積み下ろしがぐんと楽になった。後席をたたんだときの荷室床面も低くなり、27インチサイズの自転車を立てたまま積むこともできる。また、各所に設けられた収納スペースも充実しており、紙パックが置けるドリンクホルダー、スマートフォンやタブレットも入るシートバックポケットなど、かゆいところに手が届く配慮が嬉しい。2018年春には車イスなどでの乗降も可能なスロープ仕様も追加される予定だ。

リアシートタイダクシング機構 使用イメージ



## シンプルで洗練、細部への気配りのエクステリア



N-BOX



N-BOX Customオプション装着車



N-BOX リアスタイルイメージ

短くフラットなボンネットが特徴の箱型スタイルを踏襲しながら、より洗練されたフィニッシュで仕上げられた新型N-BOX。フロントグリル開口部の面積は抑えながらも各所にエッジの効いたセクションを配し、丸形をモチーフとしたヘッドライトとともにひと目でN-BOXと分かるフロントマスク。LEDリアコンビネーションランプを縦基調で左右両端に配置し、横基調のキャラクターラインも手伝って軽自動車とは思えない存在感が印象的なアビューレ。そして抑揚のあるボディパネルと、前から後ろまで突き抜けるキャラクターラインが精悍さを感じさせるサイドビュー。画一的になりがちな箱型とは思えないほどデザインへのこだわりが幾重にも隠されている。



N-BOX G-EX Honda SENSING インテリア

### リラックスした時間と空間のインテリア

ゆったりとくつろげる空間と、運転しやすく疲れにくい環境を両立したインテリアも新型N-BOXの見逃せないポイントだ。ステアリングホイール上方から指針などを見るアウトホイールメーターは、前方奥に位置するため運転中の視線移動が少なく、メーター左側に置かれた4.2インチ・マルチインフォメーションディスプレイの情報も自然に目に入ってくる。横基調デザインのインストルメントパネルはすっきりとしたデザインに加え、細部まで丁寧に仕上げられ質感も高い。助手席側の大きめのトレイや、ステアリングホイール前方のアッパー・ボックスなど使い勝手も配慮されている。ゆったりとした座り心地のフロントシートはフレームを新設計し、高速走行でも疲れにくい形状に仕上げられている。



N-BOX G-EX Honda SENSING インテリア

### カスタムの内外装(ノーマルとの差別化)

もうひとつのN-BOXとして、「セレブリティ・スタイル」でデザインされたN-BOXカスタムにも注目したい。専用フロントバンパーとメッキバーを備えたフロントグリルが表情を引き締め、流れるように点滅する軽自動車初のシーケンシャル・ターンシグナルランプがプレミアム感を高める。大型テールゲートspoilerや専用ガーニッシュがスタイルをより際立たせるアビューレも魅力的だ。インテリアに目を移すと、光の角度によってルージュやグリーンの輝きを見せるプロンズパネルが妖艶ともいえる雰囲気を演出。レザー調素材を生かしたターボ車専用のコンビネーションシートや、本革巻きステアリングホイールも所有する歓びを満たしてくれる。



N-BOX Custom 9灯式フルLEDヘッドライト点灯イメージ



N-BOX Custom 15インチアルミホイール イメージ

### 豊富なBody Color



N-BOX Customは6色と5種の2トーンカラーを設定



N-BOXのみ



N-BOX Customのみ



2トーンカラー



2トーンカラー